

音楽科学習指導案 1年0組教室	ねこのなきごえであそぼう 日時:令和7年9月0日(○) 指導者:○○ ○○ 児童:第1学年0組
--------------------	---

1 題材の構想

(教材曲:「2ひきのねこのゆかいなうた」ピアノ曲「ねこのおはなし」野田 玲作詞・作曲)

題材の目標	様々な声の出し方(声の高さ、長さ、音色)の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くとともに、声による音遊びを通して音楽づくりの発想を得るために、即興的に声で表現する技能を身に付けながら、いろいろな声で表現することに興味をもち、生活の中の様々な音や音楽に親しむ。
[指導事項との関連] A表現(3)音楽づくりア(ア)イ(ア)ウ(ア) [共通事項] ア [児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素] 声の高さ、長さ、音色	
題材・教材について	本題材は、声での音遊びを通して、声の高さ、長さ、音色などの特徴に気付いたり、様々な発想を得たりすることをねらっている。 ねこは児童にとって身近な動物の一つであり、鳴き声を声で表現しやすい生き物である。ねこの鳴き声を即興的に試したり友達とやり取りしたりする活動を通して、声の高さ、長さ、音色などの特徴について気付き、それらが生み出すよさや面白さを感じ取るとともに、自分が気に入った鳴き声を即興的に選んだりつなげたりすることで新たな発想を得ることができると考える。 「2ひきのねこのゆかいなうた」は、ねこの鳴き声だけで歌われる曲であり、鑑賞の活動として位置付けることで、児童に声で音遊びをすることへの興味・関心をもたせるとともに、音遊びの発想を得るための手掛かりとなると考える。 「ねこのおはなし」は、楽曲中にいろいろな様子のねこを鳴き声で表現する部分があり、児童が本題材の学習を生かして表現するのに適している。
児童の実態	本学級の児童は、常時活動の音楽ゲームなどで、教師の指示するいろいろな気持ちを即興的に声で表す経験をしてきている。それらの活動を通して、自分の歌声に関心を持ち、いろいろな声の表現の仕方ができるようになりつつある。しかし、声による音遊びの学習は本題材が初めてであり、児童が声によるいろいろな表現の仕方を試し、声の高さ、長さ、音色などの特徴に気付くことができるようにしたい。そのため、本題材でねらう資質・能力の育成に向けて、抵抗感なく声による音楽づくりの楽しさを味わうことのできる手立てが必要である。
研究の視点と関連した手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供たちが見方・考え方を豊かに働かせる手だての工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々なねこの鳴き声やその特徴に気付くことができるよう、様々なねこの鳴き声の動画やねこの鳴き声だけで歌われる「2ひきのねこのゆかいなうた」を視聴する。 ・ 声の高さ、長さ、音色などの特徴と様子や気持ちの関わりに気付き、楽しく表現することができるよう、「みんなの広場」を「怒った声」「悲しい声」などで歌う活動を取り入れる。 ○ 生き生きと学び合う場の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童がねこの鳴き声の発想を得やすいよう、「けんかをしている」「甘えている」などの条件を設定する。また、より豊かな発想を得ることができるよう、いろいろな友達と即興的に試す場を設定する。 ・ 友達の表現のよさや面白さを、実感を伴って共有することができるように、友達の表現を模倣する場を設定する。 ○ ICTの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「スペクトログラム」を用いて声を視覚化し、聴き取ったことや感じ取ったことを言語化する手掛かりとする。

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 様々な声の出し方(声の高さ、長さ、音色)の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付いている。</p> <p>(発言・つぶやき)</p> <p>技 発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に声を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けている。(表現の聴取)</p>	<p>思 様々な声の出し方(声の高さ、長さ、音色)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、声による音遊びを通して音楽づくりの発想を得ている。</p> <p>(発言・表現の聴取)</p>	<p>態 いろいろな声で表現することに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に音遊びの学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>(行動観察・発言)</p>

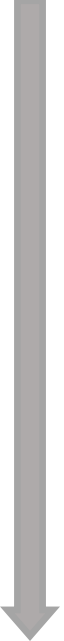
3 教科等横断的な視点で見た、音楽科との関連について

教科	学習内容
国語科	<p>「やくそく」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読する。 ○ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。
図画工作科	<p>「触り心地発見」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身の回りのいろいろなものに触れながら、触り心地の面白さや違いを見つける楽しさや喜びを味わう。
体育科	<p>「表現遊び」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な題材の特徴を捉え、跳ぶ、回る、ねじる、這う、素早く走るなどの全身の動きで、そのものになりきって即興的に踊る。

4 指導と評価の計画 (3時間)

○数字・・・全員の学習状況を記録に残す場面

時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態	○全体への指導・支援 ※努力を要する状況と判断されそうな児童への働きかけ
第1時	◎ 様々な声の出し方(音色)の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付く。				
	<p>【めあて】 いろいろなねこのなきごえを あつめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ねこの鳴き声を見つけたり試したりする活動を通して、様々な鳴き声の特徴に気付く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ねこの動画を視聴し、いろいろな鳴き声を見つける。 ・ 見つけた鳴き声のねこの様子や気持ちを想像する。 ・ 見つけた鳴き声を試す。 				○ 発表したねこの鳴き声を黒板に図形楽譜で表し、音高や長さ、音色の要素や想像したねこの様子を言葉で板書する。

	<ul style="list-style-type: none"> 代表の子対全体、二人組で模倣し合うなどして、いろいろな鳴き声を試す。 <p>○ 「2ひきのねこのゆかいなうた」を聴き、ねこの鳴き声で音楽ができることに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 気付いたことや感じたことを発表する。 	<p>知 (行動観察・発言)</p>		<p>○ 声の高さや長さ、音色などを変えてねこの鳴き声を試す活動を通して、それらが生み出す面白さに気付かせる。</p> <p>知※ 動画や友達の見つけた鳴き声について、どう感じたか尋ねる。</p> <p>態※ 動画を一緒に見て、どんな鳴き声があったか個別に尋ねる。</p> <p>○ ねこのどんな様子を表しているか言語化の手掛かりになるように、動画で視聴する。</p>
<p>第2時 (本時)</p>	<p>◎ 様々な声の出し方(音色)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、ねこの鳴き声による音遊びを通して音楽づくりの発想を得る。</p> <p>【めあて】 ねこのなきごえでおはなししよう。</p> <p>○ けんかをしているねこを想像しながら、即興的に表現し、音楽づくりの発想を得る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々なペアで、様々なねこの鳴き声を試す。 友達の表現を聴き合ったり、模倣したりする。 <p>○ 甘えているねこを想像しながら、即興的に試し、音楽づくりの発想を得る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々なペアで、高さや長さなどを変化させて、ねこの鳴き声を試す。 友達の表現を聴き合ったり、模倣したりする。 <p>○ 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 工夫したことや気付いたことについて発表し共有する。 	<p>思 (行動観察・発言・聴取)</p>		<p>○ 発表したねこの鳴き声を黒板に図形楽譜で表し、音高や長さ、音色の要素を言葉で板書する。また、どこからそのように感じたのか、児童の発言を板書する。</p> <p>○ 聴き取ったことや感じ取ったことを言語化する手立てとなるように、スペクトログラムを用いる。</p> <p>思※ 友達の表現を模倣させ、どのように感じたか尋ねる。</p> <p>技※ ペアの友達の鳴き声をまねたり応えたりするように声をかける。</p> <p>態※ 声の出し方の手掛かりとなるよう、手をねこのように動かして会話をするよう助言する。</p> <p>○ 児童の表現の変容を捉えて価値付け、共有する。</p>

◎ 発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に声を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付ける。			
第 3 時	【めあて】 ねこのなきごえでおはなしして うたおう。		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までに得た発想を生かしながら、グループで即興的に表現し、歌に合わせて音楽をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ うれしいとき、悲しいときなど歌に表されているねこの様子を想像しながら、声の高さ、長さ、音色などを工夫して、グループでいろいろな鳴き声を試す。 ・ 自分たちの表現を録音して聴き、さらに他の表現を試す。 ・ 友達の表現を聴き合ったり、模倣したりする。 ○ 学習の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ どんな鳴き声を見つけることができたか振り返る。 	↓ 技 (聴取)	↓ 態 (行動観察・発言)

5 本時の展開 (2/3時間)

学習活動	教師の働きかけ (指示・説明・発問) 予想される児童の姿(・)	教師の支援(○) 個への支援(※)	評価(☆) (評価方法)
1 常時活動をする。	【常時活動】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「みんなの広場」 ・ 「動きを声で表そう」 ボール スカーフで 	<ul style="list-style-type: none"> ○ どの児童も抵抗なくねこの鳴き声を工夫して表現できるよう常時活動を行い、表現することがより一層楽しくなるような雰囲気づくりをする。 ○ 素材の違いによる声の音色の違いを価値付け、言語化する。 	
2 めあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今日は、ねこの鳴き声でお話してみよう。 		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">ねこのなきごえで おはなししよう。</div>			
3 けんかをしているねこの鳴き声でお話をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ けんかをしているようにお話してみよう。どうしたらいいかな。 ○ 「ニャー」の鳴き方を 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音遊びの流れをつかむことができるように、手本を示しながら説明する。 ○ 声の高さや強さ、長さ 	

<p>4 甘えているねこの鳴き声でお話しをする。</p>	<p>変えて、ペアでお話をしましょう。その時に、ねこの鳴き声の高さや強さ、長さを変えて、けんかをしているときのねこの鳴き声を、いろいろ試してみましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【設定した条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ニャー」だけで会話する。 ・声の高さや長さを変える。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ タンバリンが鳴っているときにペアを探して、見つけた友達とお話ししましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは、低い声でなくと、高い声で鳴くよりも怒った感じがするな。 ・次の友達の時は、長さを変えて鳴いてみよう。 ○ 友達の鳴き声を聴いてみましょう。どのようなところから、けんかしたように感じたのですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・強く短く鳴いていたところが、けんかしているような感じがする。 ・低い声で伸ばしているところが、今にも飛びかかっていきそう。 ○ 友達の発表を試してみましょう。新しいアイデアが浮かんだら、ペアの人に紹介してやってみましょう。 ○ 次は、甘えているねこの鳴き声でお話をしましょう。 ○ 友達の鳴き声を聴いてみましょう。どのようなところから、甘えたように感じ 	<p>を、実際に声に表して確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろなペアと試す機会を設定し、様々な鳴き声の発想を得られるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ※ 表現することが難しい児童には、体を動かしてお話をするように助言する。 ○ 動作などにとらわれないように、目を閉じて聴くように指示する。 ○ 児童の表現の工夫や変容を捉えて価値付け、全体で共有する。 ○ 発表したねこの鳴き声を黒板に図形楽譜で表し、音高や強弱、音色の要素を言葉で板書する。また、どこからそのように感じたのか、児童の発言も板書する。 ○ 友達の表現のよさや面白さを実感し、そこから得た新たな発想を試すことができるように、取り組ませる。 ○ 表現する時間を確保し、同じペアで甘えているいろいろな鳴き声を試すようにする。 ○ 児童の表現の工夫や変容を捉えて価値付け、全体で共有する。 	<p>【思】 声の高さ、長さ、音色などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考</p>
------------------------------	--	---	--

<p>5 学習を振り返る。</p>	<p>たのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 声を高くすると楽しい感じになった。 ・ おこった時の声と違う。 <p>○ 友達の鳴き声をまねしてみましよう。新しいアイデアが浮かんだら、ペアの人に紹介してやってみましよう。</p> <p>○ ねこの鳴き声で友達とお話してみて、思ったことや気付いたことを発表ましよう。</p>	<p>○ 友達の発表から得た新たな発想を何度も試すことができるように、ペアは変えずに取り組ませる。</p> <p>○ 学習を振り返り、即興的に様々なお話の仕方や、発想を得ていた場面を想起し、価値付ける。</p>	<p>え、声による音遊びを通して音楽づくりの発想を得ている。 (発言・聴取)</p>
-------------------	--	---	--

6 本時の板書

めあて
ねこのなきごえで、おはなしましよう。

けんかするねこ
写真

ボール
・ かたい
・ はやい

あまえるねこ
写真

ハンカチ
・ やわらかい
・ ふわふわ
・ ひらひら
・ ながい

やくそく
① 「ニャ」をつかう
② ながさ、たかさをかえる

ニャ オ ニャ オ

・ おこったかんじ
・ イライラ

ニャッ ニャツ

・ かわいい
・ やさしい
・ あまえているかんじ

7 題材を通した協議の視点

- ・ 児童は、音遊びを通して声の高さ、長さ、音色などの特徴について、発想を得ることができていたか？
- ・ 児童が音楽遊びを通して声の高さ、長さ、音色などの特徴について、発想を得るための、教師の手だては有効であったか？
- ・ 教科横断的視点やカリキュラムマネジメントは、有効であったか？